

山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム 2017 を終えて

2017年11月6日より10日まで、富士山を望む静岡県御殿場市の時之栖で開催したACPM2017は成功裏に終わりました。参加者、後援・協賛企業ならびに自治体、助成団体の皆様に御礼を申し上げあげます。本務を行いながらの準備作業のなかで、数えあげればきりがなほどのトラブルを乗り越え無事に終えることができ、ほっとしています。

本国際会議の目的は、本研究分野に携わる世界の研究者や技術者が一堂に会し、最新の研究成果を発表し、地球環境問題の解決に向けて議論する場を提供することにあります。2010年に開かれた第1回会議はスイスの名峰ユングフラウ、アイガーなどを望むインターラーケン、2014年の第2回会議は米国のロッキー山脈を望むコロラド州スチームボートスプリングスで開催され、ACPM2017が第3回の開催となりました。なお、第2回まで略称はACPでしたが、山岳域に関する国際会議であることから、本会議からACPMを用いることを提案しました。

国際会議を主催することは、当NPOとしてはビッグチャレンジでした。人的資源、開催資金など不安要素ばかりでした。しかしながら、10周年記念事業としてACPMを主催する決断をし、畠山理事長を実行委員長、三浦理事と私が副実行委員長として実行委員会を立ち上げました。開催場所については、当NPOのシンボルでもある富士山のお膝元で開催することを決定しました。

国際会議に限らないことですが、まずは開催費用の工面で大変苦労をしました。開催までに時間が限られたなかで、実行委員会の先生方に企業協賛金のお願いと助成団体への申請に奔走していただきました。資金獲得とともに支出削減でも頭をいたしましたが、日程の調整などで会場費を削減するなどの工夫も行いました。会議に必要な資料等についての助成団体からのご支援を受けました。一方、印刷物はA5版プログラム集のみとし、要旨集はPDFをダウンロードする方式としました。

ACPM2017では初めての試みとして優秀学生賞を創設しました。15名の学生発表があり、発表態度、適切な考察、質疑応答、発表資料の質という4つの観点から、12名の審査委員により、厳正な審査を行っていただきました。その結果、中村恵さん（早稲田大学）、桃井裕広さん（東京理科大学）、Ghislain Motosさん（Paul Scherrer Institute、Switzerland）の3名が受賞され、閉会時に畠山理事長から賞状と記念品として富士山グラスを贈呈しました。審査時間が短い、口頭発表とポス

ター発表を同列に評価するのは難しいなどの反省点はありましたが、この分野の若手研究者をエンカレッジするためにも、今後のACPMでは改善しながら継続して欲しいと思います。

ワンデイ・トリップ、バンケットにも参加者は大変満足されていたようです。会議最終日には参加者の国を示した地図とメッセージボードも用意し、とてもアットホームな国際会議でした。自画自賛かもしれませんが、当NPOの10周年記念事業として大成功でした。ご支援、ご協力いただきました皆様に重ねて御礼を申し上げます。



ACPM2017 副実行委員長
大河内博 (理事・早稲田大学教授)

ACPM2017 概要

会議名	2017 Symposium on Atmospheric Chemistry and Physics at Mountain Sites	
(日本語)	山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム 2017	
期間	2017年11月6日(月)～11月10日(金)	
会場	御殿場高原リゾート・時之栖 (ときのみか) 静岡県御殿場市神山 719 番地	
主催	ACPM2017 実行委員会	
共催	認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会 東京理科大学総合研究院 大気科学研究部門	
助成	公益財団法人鹿島学術振興財団 一般財団法人新技術振興渡辺記念会 静岡県東部地域コンベンションビューロー	
協賛	東京ダイレック(株)、日本カノマックス(株)、(株)ガステック、 紀本電子工業(株)、グリーンブルー(株)、柴田科学(株)、 東亜ディーケーケー(株)、(株)日本医科器械製作所、 (株)ブリード、(株)堀場製作所、ムラタ計測器サービス(株)	
後援	静岡県、山梨県 大気環境学会、日本エアロゾル学会、日本環境化学会、 日本気象学会、日本大気化学会、日本大気電気学会	
規模	参加者	101人(日本、台湾、韓国、タイ、スイス、ドイツ、 ポーランド、スペイン、クロアチア、アメリカ、 カナダ、カメルーン)
	発表数	74件(口頭発表41件、ポスター発表33件)
	企業展示	9社

Outstanding Student Research Award を受賞して

私にとって二度目の国際会議ではありましたが、英語での発表、言いたいことが伝わっているか、質問が聞き取れるかなど心配ごとはありませんでした。国内外を問わず、特に国際会議では研究成果を伝えるために英語力が必要不可欠であることを改めて感じさせられました。実際に発表してみると研究者の方々から内容について適格なコメントをいただき、お褒めの言葉もいただくことができました。厳しいご指摘ももちろんありましたが、解析手法について様々なアドバイスを頂き、今後の研究を進める上で良い経験となりました。指導教官の三浦和彦教授をはじめ、ご指導頂いた共著者の青木一真教授(富山大学)、ACPM2017においてお世話になった方々に厚く御礼申し上げます。この経験を糧に、今後も精進したい所存です。(東京理科大学 桃井裕広)



研究室が始まって以来、10年間サンプリングを続けてきた成果を、このような素晴らしい学会において発表する機会が持てました上、評価していただけたことを大変嬉しく思います。研究室の先輩方の積み重ねなくして受賞できなかったと思っていますので、先輩方にも感謝しております。また、多くの方に発表を聞いていただき、多くのご助言をいただきました。今後も研究にさらに情熱を注ぎ、考察を深めていきたいと感じました。本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた大河内教授、観測にご協力いただいた認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会の皆様、観測を今まで続けてこられた研究室の先輩方、そして、富士山観測でもたくさん助けていただいた研究室のメンバーに感謝しております。残りの研究生生活も充実したものとなるよう、日々の積み重ねと勉強を怠らず、邁進していきたいと思っています。(早稲田大学 中村恵)